

血液疾患患者における心左室緻密化障害についての検討

血液腫瘍内科 東條有伸

左室緻密化障害 (LVNC:left ventricular non-compaction) とは過剰な網目状の肉柱形成と深い間隙を形態学的特徴とする心臓の希少な疾患です。胎生期に粗な心内膜心筋の構造が、成長していく過程で、緻密な心筋構造になっていくが、左室心筋緻密化障害は、これが中断され、心内膜で覆われた肉柱が遺残します。LVNCの診断は心エコーにより行われるのが一般的です。LVNC の臨床像は、無症状から致死的な例まで多彩であり、心不全、Wolff-Parkinson-White症候群や房室ブロック、心室頻拍などの不整脈、血栓塞栓症が典型的合併症であり、合併症のある例は予後が悪い疾患です。

また、一部では家族性であり、原因遺伝子としてX染色体q28のG4.5と18番染色体 q12 の α -dystrobrevinが同定されています。

当院では年間600例の心臓超音波検査が施行されており、このうち血液腫瘍内科の患者様は約200名です。そこで、我々は血液腫瘍内科の患者様において、LVNCがどの程度の割合で認められるのか、また、血液疾患の患者で見られる染色体異常との関連性はあるのか、化学療法による影響が考えられるのかなどについて検討することにしました。また、血液腫瘍内科以外の科の患者様のデータを比較対照として使用する方針としております。なお、この研究は東京大学医科学研究所倫理審査委員会の承認を得て研究機関の長の許可を受けて実施されます。

1. 研究の対象となる方

当院にかかりつけで、当院にて心臓超音波検査を施行された患者様を対象とします。1997年1月から現在に至るまで期間に心臓超音波検査を施行された患者様(約13800名)を対象とします。

2. 研究に用いる情報の種類

本研究では、当院で保管している、心臓超音波検査・心臓に関連する血液検査項目・診療録・末梢血中や骨髓液中の細胞の遺伝子染色体検査などのデータを主に用います。

研究に用いる際は、情報に番号を付けて、匿名化します。番号と個人情報を記した対応表は、当院、および先端医療研究センター 分子療法分野のそれぞれで個人情報保護管理者が厳重に保管・管理します。

3. 研究期間

2017年7月28日(医科学研究所所長・附属病院長の許可日)～2020年3月31日まで

4. 研究協力の辞退について

診療情報・検査データが本研究に用いられることについて患者様もしくは患者様の代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者様に不利益が生じることはありません。

5. 研究組織

研究責任者:

氏名 東條有伸 所属 医科研附属病院血液腫瘍内科・分子療法分野 職名 教授

共同研究者:

氏名 木村公一 所属 医科研附属病院検査部 職名 特任助教

氏名 野島正寛 所属 先端医療開発推進分野 職名 准教授

氏名 平野光人 所属 分子療法分野 職名 大学院生(医学系研究科)

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

<問い合わせ先および研究への利用を拒否する場合の連絡先>

研究機関名	研究責任者	職名	電話番号
東京大学医科学研究所 附属病院血液腫瘍内科・ 分子療法分野	東條有伸	教授	03-3443-8111 (内線 75075)